

## 実教出版「基本簿記 改訂版（第3刷）」本文記述更新のお知らせ

本書第3刷におきまして、下記ページ記載内容の更新（修正）を行いました。本書第2刷をお持ちの皆様には大変お手数ですが、更新内容をご参照の上、ご利用くださいますようお願い申し上げます。

ページ	箇所	第2刷（旧）	第3刷（新）
p.11	10行目 11行目 13行目	資本等式	純資産等式  ※上記に伴い、p.179の索引も修正。
p.13	側注①	① 期首と期末の純資産を比較して、一会計期間の純損益を計算する方法を <b>財産法</b> という。財産法に対して <b>損益法</b> という計算方法もある（p.15参照）。	① 期首と期末の純資産を比較して、一会計期間の純損益を計算する方法を <b>財産法</b> という。なお、本書は入門書のため、ここでは繰越利益剰余金の増加を利益としており、配当は考慮していない。また、財産法に対して <b>損益法</b> という計算方法もある（p.15参照）。
p.56	例題1 2行目	買掛金の前月繰越額は¥600である。	買掛金の前月繰越額は¥600（京都商店¥400、奈良商店¥200）である。